

和歌山への私の提言 地方色（果物）をいかして発展を目指す

趙 璠

（教育学部 日本語・日本文化研修留学生）（中国）

和歌山へ来てから、がやがやと騒々しい都市と違う感じがある。和歌山は、空気がおいしく、景色が心地よい上に、気候も人の心に適っている。しかし、和歌山へ来る観光客はほかの地域より少ない。このような現象に対して、私は和歌山の発展を目指すために、地方色をいかし、世界中の人々に知らせることは必要だと思う。



奈良は、和歌山と似ており、歴史の長い文化財が集まるところで、静かな町だ。しかし、奈良はよく知られているが、和歌山を知っている人は少し少ない。なぜこのような現象があるのかということについて、和歌山と奈良を比較しながら考査してみたい。まず、知名度の面から考えてみると、奈良は和歌山より、もっと多くの人に知られている。例えば、中国に奈良を知っている小学生は多いが、和歌山のことを聞いたことがある大学生は少ない。次に、商店街のことについて、奈良の商店街は大阪の商店街ほど小さいが、飲食店やファッションに関する店は多くあり、便利で、にぎやかである。逆に、和歌山に商店街はたくさんあるが、シャッター店が多く、お客さんもかなり少ない。しかも、観光について、奈良には法隆寺、東大寺、春日大社などの観光名所があり、可愛い鹿も多い。和歌山にも高野山、熊野三山、那智の滝があり、観光客に適するところだ。また、交通の面から考えてみれば、和歌山のほうはさらに便利である。海外の観光客は日本へ旅行に来るとき、成田空港と関西空港をよく利用する。南海電車で和歌山へ来るのは30分しかかからない。一方、奈良の近くにある国際空港は奈良になかなか遠い。さらに、和歌山は海岸線が長く、海辺の自然資源をよく利用すれば、経済の発展が促進できるに違いない。要するに、和歌山の知名度は奈良ほど低い、和歌山の優れている点、即ち和歌山の特色は少なくない。



中国には「よいお酒は奥まったところで売っても、いい香りがするので、お客さんが来る」という諺があるが、現代にはそうではない。この諺は商品の品質を大切にしなければならないということを強調するが、競争が激しく、マスコミが発達している時代には適しない。地域の発展を求めることも同様だ。上述したとおりに、和歌山にも歴史の長いところだが、知名度は関西のほかの県ほど少し低い。なぜなら、和歌山は、総合的な力が低くではないが、人々によく知られており、特別な点が特にない。例えば、中国の同種類のレストランには似ている料理が多いが、必ずそれぞれ特色がある料理を持っている。友達に人気のレストランを薦めてもらうとき、何か特別な料理があるのかと尋ねるのは普通だ。したがって、和歌山の地方色をいかす必要がある。

和歌山の地方色は多いが、宣伝することは足りず、宣伝のターゲットから外れる。私は留学生で、和歌山のことがよく分からない。和歌山へ来てから、和歌山の名物は何かと聞かれると、「知らない」しか答えられた。数多くのパンフレットが手に入ったが、多くの名産が並んで、全てのものを覚えにくい。

地方色をいかすために、何か代表的なものを中心として宣伝することは必要だと思う。日本といえば、桜と富士山である。それに、観光客にとって、奈良の名物は鹿で、京都のはそれぞれの文化意味がある古代の建物出、神戸のは牛肉だ。では、和歌山のは何なのか。もちろん、それは和歌山に住んでいる人々に決められている。私の個人の意見だが、和歌山の果物は和歌山の地方色だ。なぜなら、自然の味を集め、種類の多く、おいしい果物は自然が与えるプレゼントで、自然の恵みをほかの地域や国に住んでいる人々と分かち合うのも和歌山人の熱意を伝えることができる。

果物を和歌山の代表的ものとして宣伝するとき、地域によって違う宣伝方法を使う必要があると思う。まず、和歌山に住んでいるにとって、安くて新鮮な果物を手に入れようとするために、和歌山の果物を買うのは最もいいのだ。しかし、和歌山にあるスーパーの中に、和歌山産の果物はあるにはあるが、少ない。それで、和歌山出身ではなく、和歌山に住んでいる人が和歌山のおいしい果物を食べる機会は少ない。したがって、和歌山のスーパーで和歌山の果物を増やしてほしい。次に、和歌山に住んでいる人以外の日本人にとって、ほかの県の果物もおいしいかもしれない上に、地元のスーパーで和歌山の果物が買えるから、わざわざ和歌山へ来て、果物を味わう必要はない。そのため、自分の手で新鮮な果物を摘むことをテーマとして果物旅行を進めるのはいいではないか。さらに、海外の観光客にとって、日本の果物は値段が少し高いので、新鮮でおいしい果物というテーマはあまり人目を引かない。したがって、果物の変わりに、果物の加工食品をすすめるのはさらに役に立つと考える。和歌山の梅酒、みかんジャムなどの食べ物はたいへんおいしく、世界の人々に宣伝すれば、必ず注目されると思う。もしかすると、和歌山の果物の加工製品がすきで、いっそう和歌山の果物に興味を持つようになって和歌山へ旅行に来る観光客はいるかもしれない。

果物自身ではなく、果物の農園への電車や駅も必要だと思う。和歌山市は和歌山県の中心だが、和歌山の全ての名所、特に果物の農園への直通電車や直通バスは少ない。例えば、高野山へ行くとき、南海線で難波へ行かなければならず、極めて不便である。それに、多くの家庭は車を持っているが、家族の都合が悪く、直通の電車やバスがないために、果物の農園へ来られない人は少なくない。したがって、JR 和歌山駅を中心として、果物、観光名所への直通電車やバスを設置してほしい。もし、電車の車体の上に、みかん、ポンカン、八朔、じゃばら、柿、梅などの果物の写真をつけたらさらにいいと思う。

もう一つの大切な点は商店街だと考える。奈良も高野山も世界文化遺産で、歴史の長い文化財が多いが、奈良には商店がある一方、高野山には商店街がないから、奈良へ行く人



はさらに多い。それで、にぎやかな商店街を進めるのも必要だ。別に全ての観光名所で商店街を設置する必要はないが、和歌山市、特に JR 和歌山駅の近くにある商店街の発展を目指すことは重要だ。今の商店街は駅より少し距離があり、不便だ。それに、ファッションの店や飲食店はあるにはあるが、極めて少ない。したがって、商店街の範囲を少し伸ばし、若者向けの店を設置すれば、和歌山へ果物旅行をするとき、宿泊をしたり、買い物したりする可能性も高くなるかもしれない。



いい商品は宣伝しなかったら売れない。自然からのプレゼントの果物を和歌山の地方色として宣伝すれば、和歌山は世界の観光名所となることかもしれないと思う。